

# なみはず 並外れた 豊かさ

ぼくの <sup>なまえ</sup>名前は、アマル。

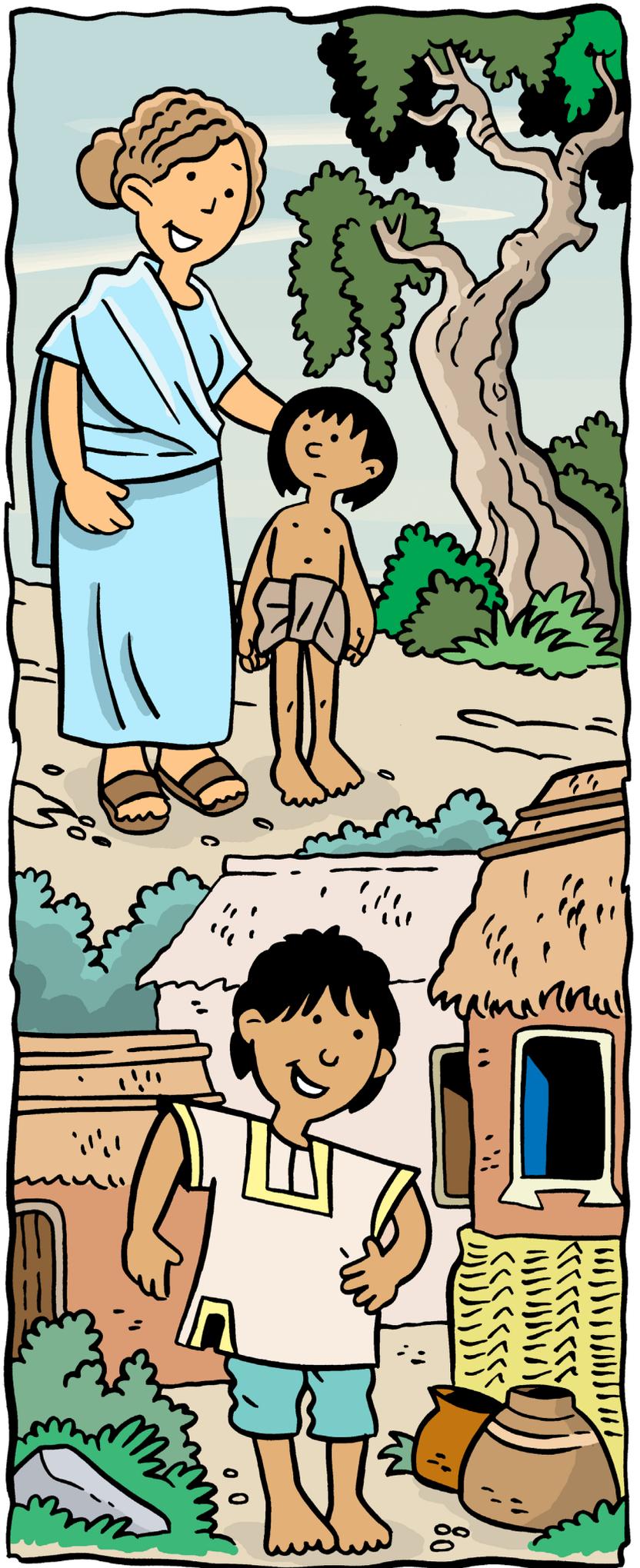
ぼくは、生まれて <sup>う</sup>すぐ、<sup>どれい</sup>奴隷として  
人に <sup>ひと</sup>引き渡された。最初の <sup>さいしよ</sup>何年かは、  
やさしい <sup>ことば</sup>言葉を <sup>かけ</sup>かけられた <sup>こと</sup>ことも  
めったに <sup>あ</sup>なくて、<sup>あい</sup>愛される <sup>こと</sup>ことが  
どんな <sup>し</sup>ことか、<sup>し</sup>知らなかった。

だけど、<sup>せんきょうし</sup>宣教師の <sup>おんな</sup>女の <sup>ひと</sup>人が <sup>き</sup>来て、  
ぼくを <sup>きゆうしゅつ</sup>救出し、<sup>ほか</sup>他の <sup>せんきょうし</sup>宣教師さん達と  
いっしょに <sup>うんえい</sup>運営している <sup>じどうようごしせつ</sup>児童養護施設に  
連れて <sup>い</sup>行って <sup>か</sup>くれてから、<sup>か</sup>すべてが  
変わったんだ。

ぼくは、それまで <sup>ひどい</sup>ひどい  
あつかい <sup>う</sup>を受けてきたので、<sup>さいしよ</sup>最初は  
<sup>せんきょうし</sup>宣教師さん達の <sup>こと</sup>ことも <sup>こわ</sup>こわかったけど、  
<sup>せんきょうし</sup>宣教師さん達は <sup>ぼく</sup>ぼくを <sup>やさ</sup>やさしく  
<sup>せ</sup>世話 <sup>わ</sup>してくれましたので、<sup>だ</sup>だんだんと  
<sup>あんしん</sup>安心 <sup>できる</sup>できるよう <sup>な</sup>なった。

<sup>せんきょうし</sup>宣教師さん達は、<sup>ぼく</sup>ぼくに <sup>ふく</sup>服や  
<sup>た</sup>食べ物 <sup>もの</sup>や <sup>ねる</sup>ねる <sup>ばしょ</sup>場所 <sup>を</sup>を <sup>くれ</sup>くれ、<sup>ぼく</sup>ぼくが  
いて <sup>と</sup>とても <sup>うれ</sup>うれしい <sup>い</sup>と言って <sup>くれ</sup>くれた。  
<sup>どれい</sup>奴隷 <sup>だ</sup>だった <sup>とき</sup>時も <sup>ふく</sup>服 <sup>や</sup> <sup>た</sup>食べ物 <sup>もの</sup>は  
もら <sup>った</sup>ったけど、<sup>せんきょうし</sup>宣教師さん達が  
<sup>しめ</sup>示 <sup>し</sup>て <sup>くれ</sup>くれた <sup>やさ</sup>やさしさは、<sup>ま</sup>全く  
<sup>ち</sup>ちが <sup>って</sup>いた。服 <sup>を</sup>を <sup>くれ</sup>くれた <sup>とき</sup>時は、  
<sup>に</sup>に <sup>っこ</sup>り <sup>と</sup>と <sup>ほ</sup>ほ <sup>え</sup>え <sup>ん</sup>んで <sup>くれ</sup>くれた。  
<sup>た</sup>食べ物 <sup>を</sup>を <sup>くれ</sup>くれた <sup>とき</sup>時は、<sup>よ</sup>よく <sup>と</sup>となり <sup>に</sup>に  
<sup>す</sup>す <sup>わ</sup>わ <sup>っ</sup>て、<sup>ぼく</sup>ぼくと <sup>いっ</sup>いっ <sup>しょ</sup>しょ <sup>に</sup>に <sup>食</sup>食 <sup>べ</sup>べて  
<sup>くれ</sup>くれた。

<sup>あそ</sup>遊 <sup>ん</sup>で <sup>い</sup>いい <sup>おも</sup>おも <sup>ち</sup>ち <sup>や</sup>や <sup>だ</sup>だ <sup>っ</sup>て、  
あ <sup>っ</sup>た <sup>ん</sup>だ。ボール <sup>と</sup>と <sup>バ</sup>バ <sup>ッ</sup>ツ、<sup>き</sup>木 <sup>を</sup>を  
ほ <sup>っ</sup>て <sup>つ</sup>く <sup>っ</sup>た <sup>う</sup>う <sup>ま</sup>ま <sup>や</sup>や <sup>て</sup>て <sup>お</sup>お <sup>し</sup>し <sup>る</sup>る <sup>ま</sup>ま <sup>な</sup>な <sup>ん</sup>ん <sup>か</sup>か <sup>ね</sup>ね。  
以 <sup>い</sup>以前 <sup>は</sup>は、<sup>おも</sup>おも <sup>ち</sup>ち <sup>や</sup>や <sup>な</sup>な <sup>ん</sup>ん <sup>て</sup>て <sup>手</sup>手 <sup>に</sup>に <sup>し</sup>した  
<sup>こ</sup>こ <sup>と</sup>と <sup>が</sup>が <sup>な</sup>な <sup>か</sup>か <sup>っ</sup>た。



がっこう なか つくえ む  
学校の中で机に向かってすわれる  
ばしょ もらい、せんきょうし たち  
場所ももらい、宣教師さん達が  
よ か おし  
読み書きを教えてくれた。

せんきょうし たち れいぎただ  
宣教師さん達は、とても礼儀正しくて、  
やさしくしてくれた。ぼくに何かして  
ほしいことがあれば、「～して  
ください」っていうし、ぼくが  
お手伝いすると「ありがとう」って  
言ってくれるんだ。

ぼくがせんきょうし たち しんらい  
ぼくが宣教師さん達を信頼するようにな  
るのに、時間はかからなかった。  
すぐに大好きになったからね。初めて  
ハグしてもらった時のことは、今でも  
はっきりと覚えてるよ。ぼくは、  
そんな愛を感じたことがそれまで  
1度もなかったんだ。その時、ぼくは  
思った。こんな暖かさを一生持ち  
続けたいと。

ぼくは、とても恵まれた少年に  
なった。たくさんのおもちゃや  
ぜいたく品があったという意味じゃ  
ないよ。おもちゃや服は、ありふれた  
物だけだったからね。食べ物は十分に  
あったけど、養護施設には子供が  
大勢いたから、食事は簡素なもの  
だった。

だけどぼく達には、一番大切な  
ものがたくさんあったんだ。ぼく達は、  
愛と尊敬の気持ちに満ちていた。  
中でも最高だったのは、その愛の源を  
教えてもらったことだ。それは、  
イエス様と、神様のみ言葉だよ！

